

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	地理
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『高校生の地理A』 帝国書院・『詳解現代地図』 二宮書店／配布プリント					
担当教員	上島 智史					
到達目標						
1. 地図や統計資料の見方を学び、地理的な考え方を身につけることができる。 2. 世界の生活・文化を自然環境と関連付けて理解し、異文化理解の重要性を説明できる。 3. 世界の諸地域についての学習を通じて、日本との共通性や相違点を見出すことができる。 4. 地域社会が直面する諸課題を理解するとともに、持続可能な社会の構築を目指して取り組むべきことを考察できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地図や統計資料の見方を学び、地理的な考え方を身につけることができる。		地図や統計資料の見方を理解できる。		地図や統計資料を活用できず、地理的な見方・考え方ができない。	
評価項目2	世界の生活・文化を自然環境と関連付けて理解し、異文化理解の重要性を説明できる。		世界の生活・文化を自然環境と関連付けて説明できる。		世界の生活・文化を自然環境と関連付けて説明できない。	
評価項目3	世界の諸地域についての学習を通じて、日本との共通性や相違点を見出すことができる。		世界の諸地域についての学習を通じて、日本との相違点を見出すことができる。		世界の諸地域についての学習を通じて、日本との相違点を見出すことができない。	
評価項目4	地域社会が直面する諸課題を理解するとともに、持続可能な社会の構築を目指して取り組むべきことを考察できる。		地域社会が直面する諸課題を理解できる。		地域社会が直面する諸課題を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
準学士課程（本科1～5年）学習教育目標（2）						
教育方法等						
概要	「所変われば品変わる」という故事があるように、地域によって習慣・宗教・言語などの社会環境には違いがみられ、それを取りまく自然環境も一様ではない。地理の授業では、世界の諸地域でみられる「地域性」を自然・社会の両面から理解するとともに、各地域が抱える諸問題について考える力を身につける。					
授業の進め方・方法	地理の学習で重要になるのは、地図と統計資料を活用できる能力である。地図・統計資料の種類と読み方を学ぶとともに、実際に世界各地の情報に触れることで、地域の諸事象を考察する。そのため、必要に応じてプリントを配布する。また、思考力を高めるために、グループワークや視聴覚教材を活用する。					
注意点	関連科目 歴史・公共・政治経済・人間環境学・地域学 学習指針 COC+における地域理解教育の一環として、地域に対する愛着を深めるとともに、地域が抱える問題を理解できることが重要である。 自己学習 到達目標を達成するためには、授業以外にも教科書を読むなど、授業内容について理解を深める必要がある。特に、授業後の復習を欠かさないようにすること。					
学修単位の履修上の注意						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		講義の目的・概要・評価方法を理解できる。	
		2週	地図と地理情報①		地図の種類と活用方法を理解できる。	
		3週	地図と地理情報②		地域の変遷について、地形図から読み解くことができる。	
		4週	地図と地理情報③		各種統計データを分析し、それを地図化できる。	
		5週	世界の自然環境と文化①		世界の大地形について、分布と特徴を説明できる。	
		6週	地球規模で広がる課題① 資源・エネルギー問題		資源・エネルギー問題について理解し、持続可能な社会に向けた取り組みを考察できる。	
		7週	世界の自然環境と文化②		河川地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。	
		8週	世界の自然環境と文化③		海岸地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。	
	2ndQ	9週	世界の自然環境と文化④		火山地形について理解を深め、人々の暮らしとの関係を考察できる。	
		10週	地球規模で広がる課題② 自然災害と防災		日本における自然災害とその規模について理解できる。	
		11週	地球規模で広がる課題③ 身近な地域の防災意識		地域における災害リスクを考察し、ハザードマップを作成できる。	
		12週	世界の自然環境と文化⑤		大気の大循環を理解し、気圧帯・恒常風を説明できる。	
		13週	世界の自然環境と文化⑥		世界の気候区分を理解し、雨温図の違いを説明できる。	

後期		14週	地域調査法①	統計データなどを利用した地域調査法を理解できる。
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答できる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。
	3rdQ	1週	地域調査法②	収集した各種統計データなどをもとに、仮説を設定できる。
		2週	地域調査法③	地域調査で得た情報をもとに、仮説を検証できる。
		3週	地域調査法④	地域の諸課題について、調査結果をまとめることができる。
		4週	地域調査法⑤	調査結果を整理し、発表できる。
		5週	世界の諸地域① 東南アジア	熱帯地域の自然環境と農業について、理解できる。
		6週	世界の諸地域① 東南アジア	東南アジアの工業化と経済成長について、理解できる。
		7週	地球規模で広がる課題④ 人口・食料問題	人口問題と食料事情について理解し、各国の対応について考察できる。
		8週	世界の諸地域② 西アジア・アフリカ	乾燥地域の自然環境と農業について、理解できる。
	4thQ	9週	世界の諸地域② 西アジア・アフリカ	西アジア・アフリカの経済成長とイスラーム社会の変容について理解できる。
		10週	地球規模で広がる課題⑤ 宗教・民族問題	世界の宗教と民族文化の多様性について考察できる。
		11週	世界の諸地域③ ヨーロッパ	温帯地域の自然環境と農業について、理解できる。
		12週	世界の諸地域③ ヨーロッパ	ヨーロッパ統合と経済成長との関係について理解できる。
		13週	地球規模で広がる課題⑥ 都市問題	世界の都市構造について理解し、日本の特徴について考察できる。
		14週	地球規模で広がる課題⑦ 環境問題	地球的課題の解決に向けて、私たちのできることを考察できる。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野		前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後6,後7,後8,後9,後10,後12,後13
				3	
				3	前1,前12,前13,前14,後2,後3,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13
				3	前12,後4,後5,後8,後10,後11,後13,後14
				3	前12,後4,後5,後7,後10,後11,後14
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	3	後1,後2,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				3	後1,後2,後8,後10,後11,後12,後13,後14
				3	前12,後1,後2,後6,後7,後10,後11,後13,後14

評価割合

	試験（前期末・学年末）	授業への取り組み（ワークシートの完成度）	課題レポート	合計
総合評価割合	60	25	15	100
基礎的能力	60	25	15	100